

(1) 基本的な考え方

大阪府における医療実態を可視化し、
すべての関係医療機関の参画による協議を行い、
高い納得性のもと医療機関の自主的な取組みをサポート

STEP 1
病床機能報告制度と、
構想の病床4機能区分の
定義が必ずしも一致しないため、
将来必要となる病床の検討にあたり、
診療実態を分析・徹底した見える化

(平成30年 春～夏)

STEP 3
構想区域における
「将来のあるべき姿」をとりまとめ

STEP 2
「あるべき姿」の実現に向け
達成度を測定する指標の設定

(平成30年 秋～冬)

すべての関係医療機関参画による分析・協議

(平成30年 夏～秋)

診療報酬改定の状況や診療実態の詳細な分析を踏まえ、
将来のあるべき姿に対しての「地域の課題」について、
公・民分け隔てなく関係者間で認識の共有を図る

「病床機能」×「診療機能」

- ・「回復期」(サブアキュート・ポストアキュート機能)を持つ病床機能等
- ・地域で必要となる診療機能(5疾病4事業)

2025年の
あるべき姿

● 指標 (例)

次年度以降、進捗状況を把握
(モニタリング)

- ・回復期機能を担う病床の割合

(2) 地域医療構想推進への大阪アプローチ

「大阪の、大阪による、大阪のための構想推進」をめざす取組み

ポイント1 公民イコールフットイング

民間病院割合が高い大阪府にあっては、**公民一体となった協議**が必須

① 病院の将来プランについての調査

「公的医療機関等2025プラン」を契機に、公立病院、民間病院について同じ内容の調査を実施

構想区域で協議することを前提に、病院からの回答内容が比較検討等に資するよう、自由記載ではなく、データ化に適した**クローズドクエスチョン方式(大阪独自様式)**を採用

② 病院連絡会

病院関係者の参加率が低い(府域全体で10%程度)の地域医療構想調整会議を実質的に補完する、**すべての病床機能報告対象病院の参画による協議の場**

↓
構想区域の現状と課題を共有し、
将来のあるべき姿を協議

ポイント2 診療実態分析(病床機能報告の定量的分析)

定義の違いの中に活路を見出す



診療実態分析により、「急性期」報告病棟の実像を明らかに

第7次大阪府医療計画に記載し、基本的方向性を確認
関係者の理解・協力のもと、今年度、精力的に協議

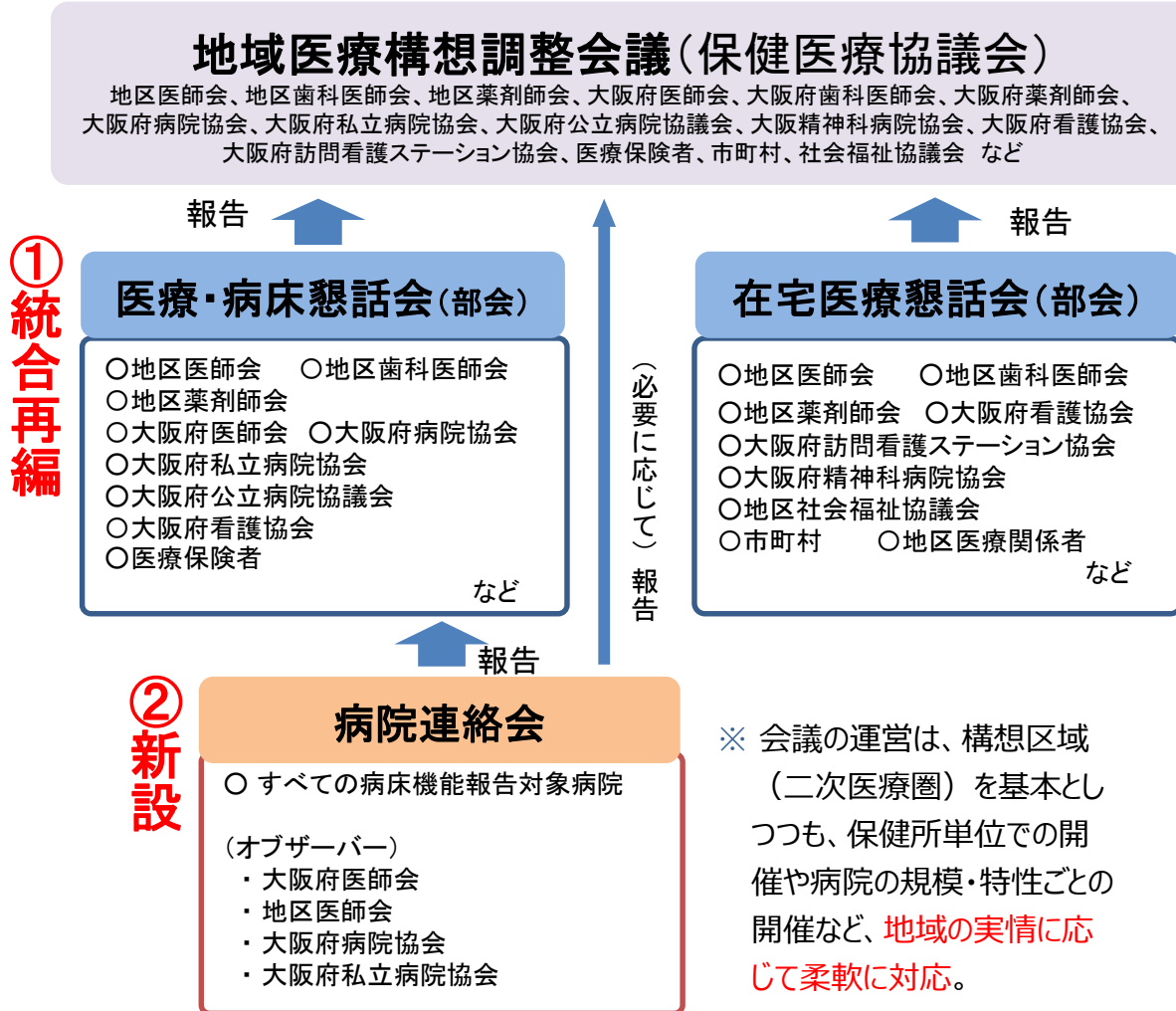
(3) 協議スキーム

各構想区域での実質的な協議の確保に向け、 地域医療構想調整会議を中心に協議に適した体制を整備

●平成30年度からの協議スキーム

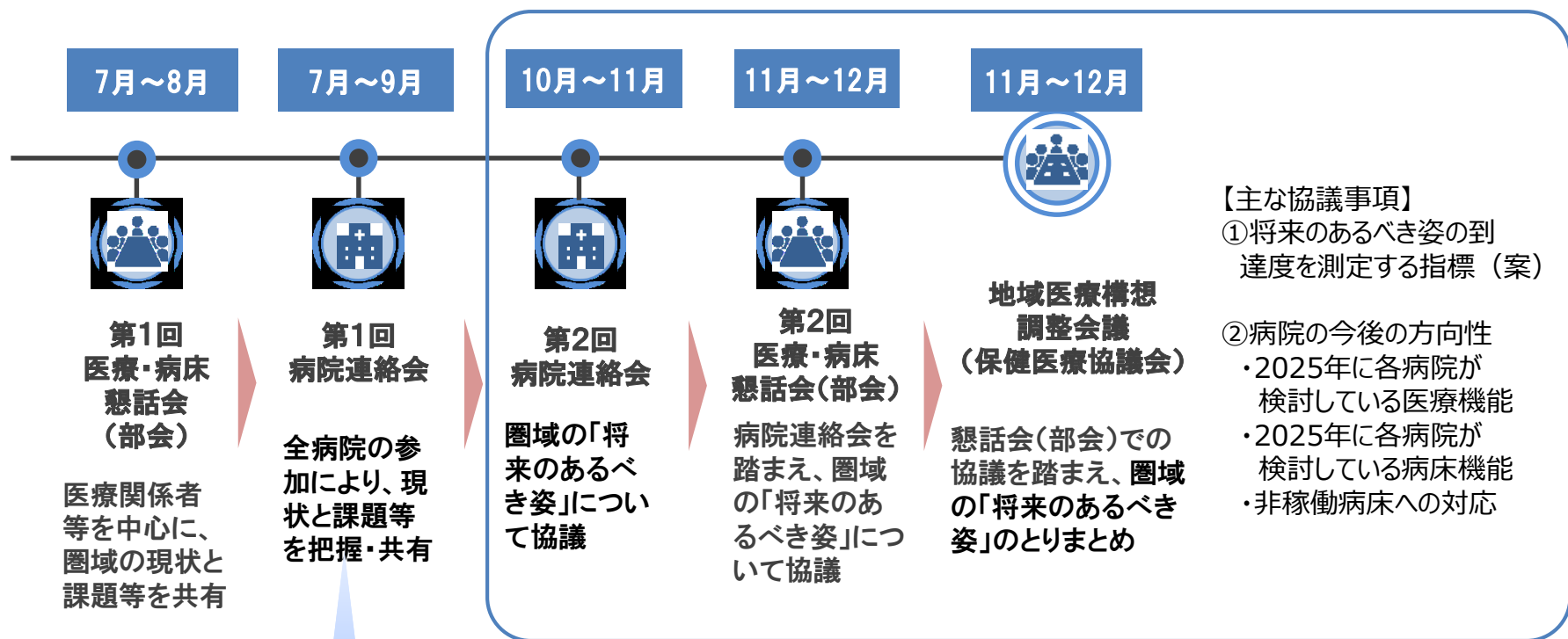
① 医療計画全体を扱う「医療懇話会（部会）」と「病床機能懇話会（部会）」を統合再編し、「医療・病床懇話会（部会）」を新たに設置。地域医療構想と医療計画を一体的に推進。

② 全病床機能報告対象病院を対象とした「病院連絡会」を新たに設置。構想区域のあるべき姿のとりまとめに向け意見交換・協議。



(4) スケジュール

ステージ感を意識しながら、機動性と実質確保の観点から、
最適なユニット(会議)で協議



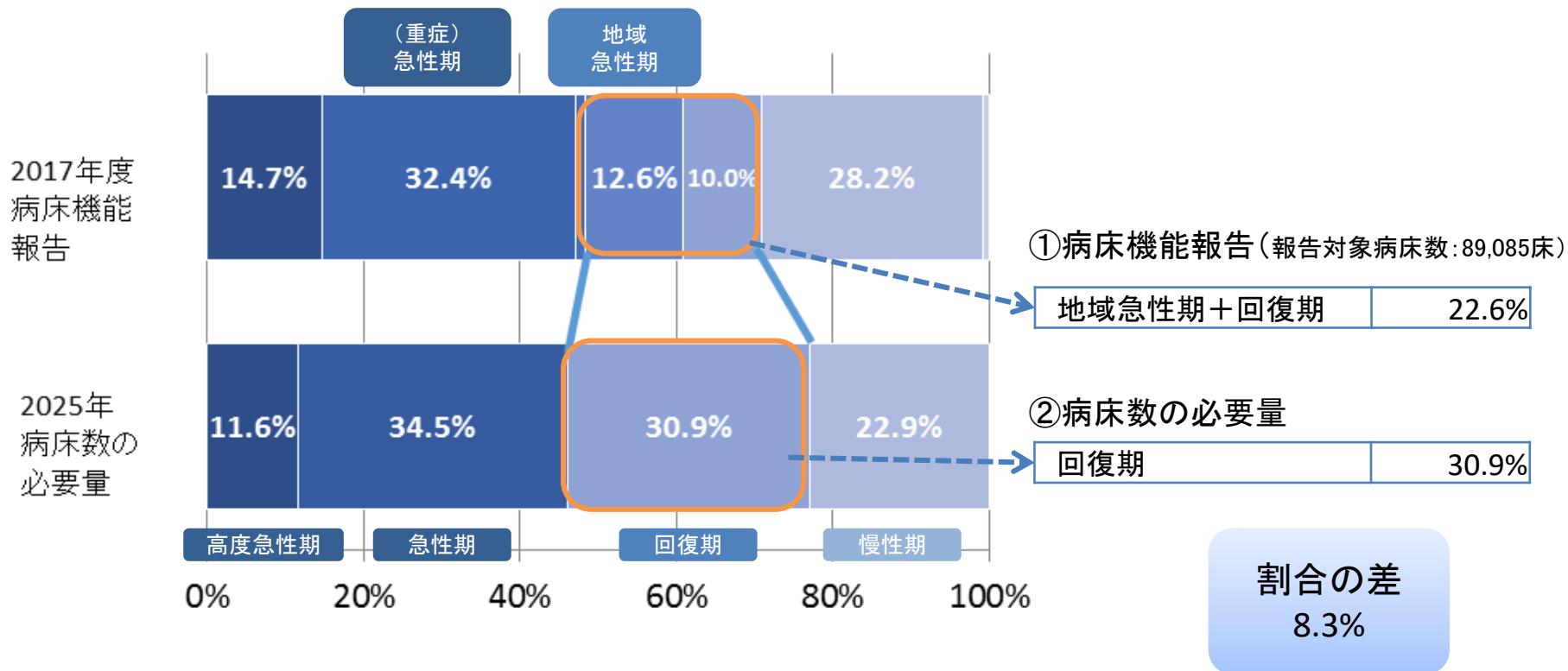
第1回病院連絡会の病院の参加状況(速報値)

| | | | |
|-----|--------------------|-----|----------------------|
| 豊能 | 43/47病院 (参加率91.5%) | 南河内 | 32/34病院 (参加率94.1%) |
| 三島 | 33/33病院 (参加率100%) | 堺市 | 34/39病院 (参加率87.2%) |
| 北河内 | 54/58病院 (参加率93.1%) | 泉州 | 59/63病院 (参加率93.7%) |
| 中河内 | 30/34病院 (参加率88.2%) | 大阪市 | 123/175病院 (参加率70.2%) |

【参考】

大阪府全域で今後必要と推計される

「回復期(サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ)機能病床」の割合



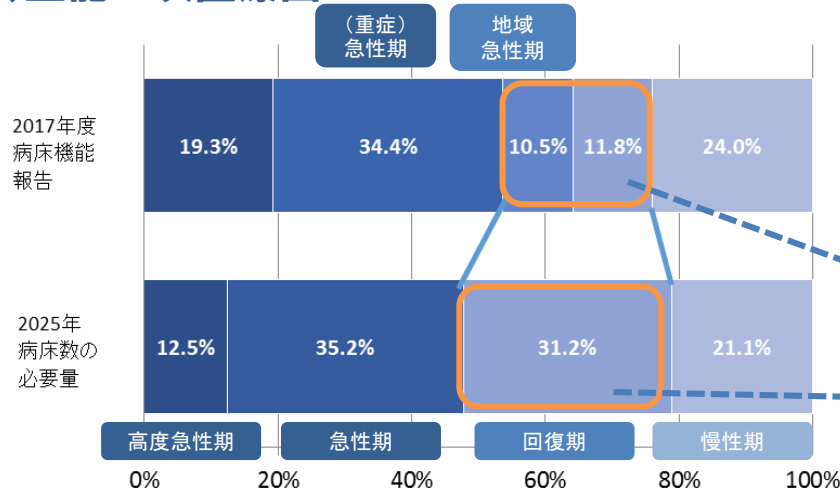
「病床機能報告」については、診療実態分析を行い、「急性期」病棟を、「(重症)急性期」と「地域急性期」に便宜上分類

構想区域別将来のあるべき姿のとりまとめに向けた検討

病床機能報告の診療実態分析を行い、「急性期」病棟を、「(重症)急性期」と「地域急性期」に便宜上分類

今後必要と推計される「回復期(サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ)機能病床」の割合を二次医療圏ごとに示し、今後の地域医療構想の進捗管理を行っていく指標として、保健医療協議会(地域医療構想調整会議)でとりまとめる予定。

(1)豊能二次医療圏



サブアキュート・ポストアキュート・リハビリ機能の現状と将来の予測

①病床機能報告(報告対象病床数:9,084床)

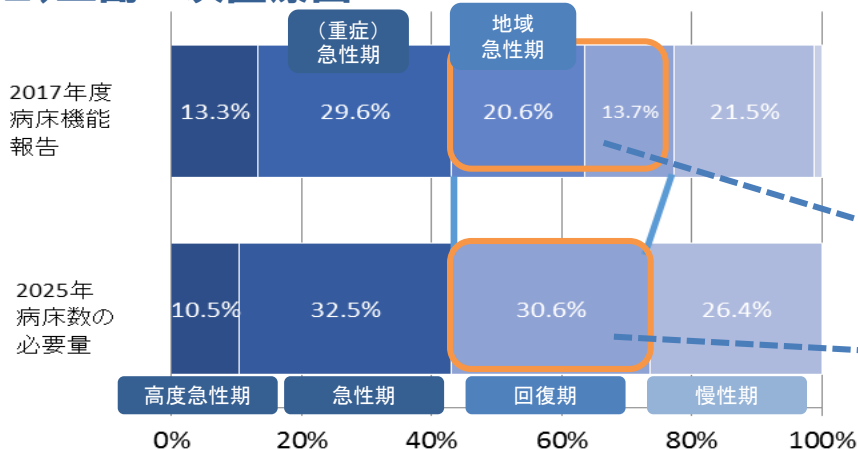
地域急性期+回復期 22.3%

②病床数の必要量

回復期 31.2%

割合の差
8.9%

(2)三島二次医療圏



①病床機能報告(報告対象病床数:6,667床)

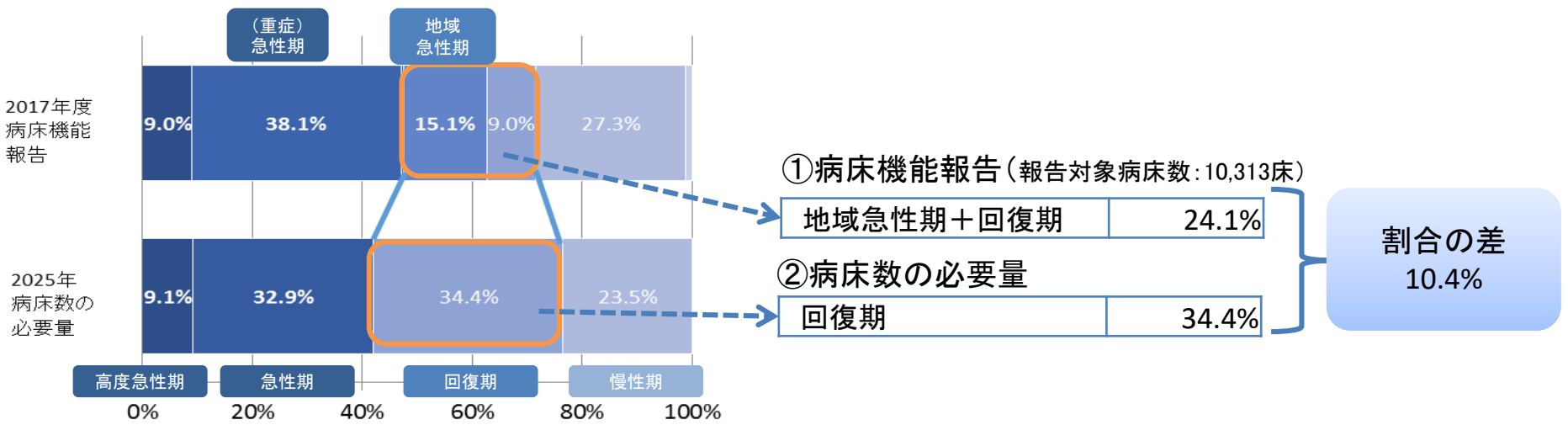
地域急性期+回復期 34.3%

②病床数の必要量

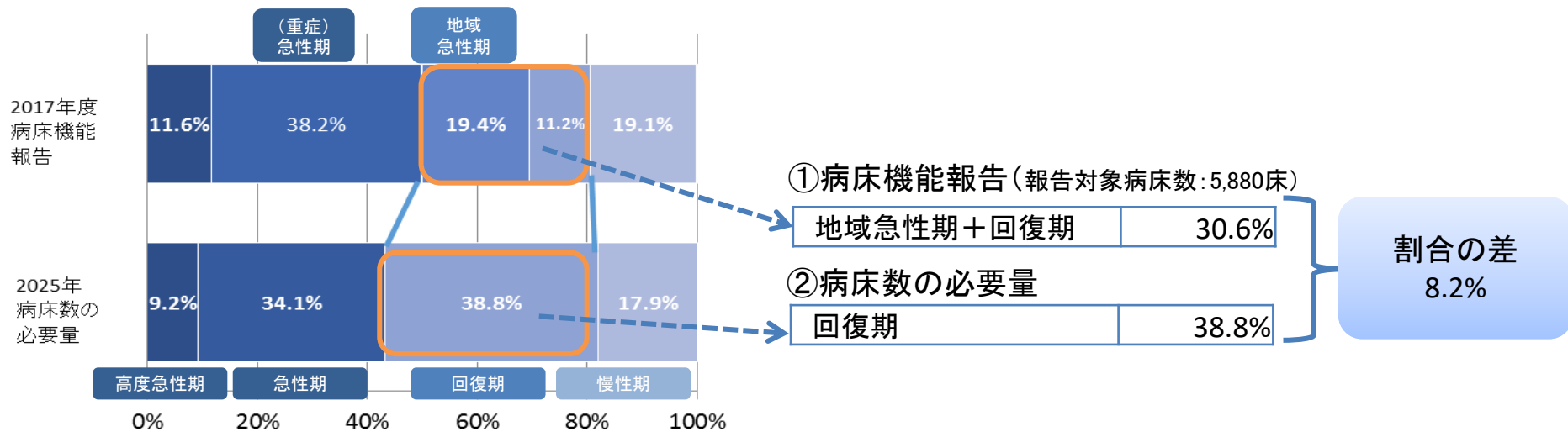
回復期 30.6%

割合の差
▲3.7%

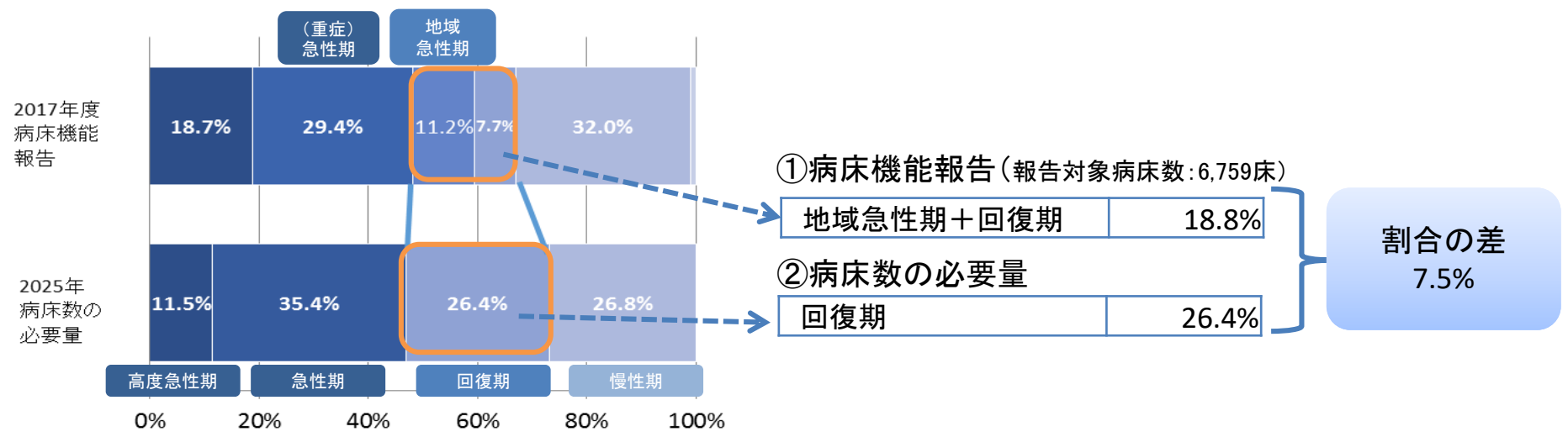
(3)北河内二次医療圏



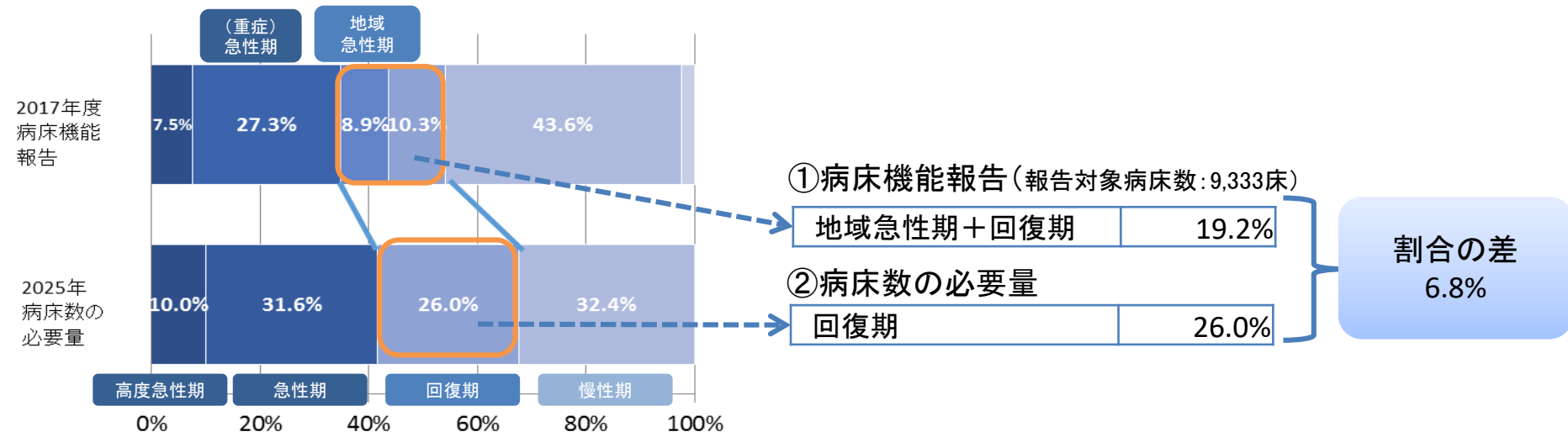
(4)中河内二次医療圏



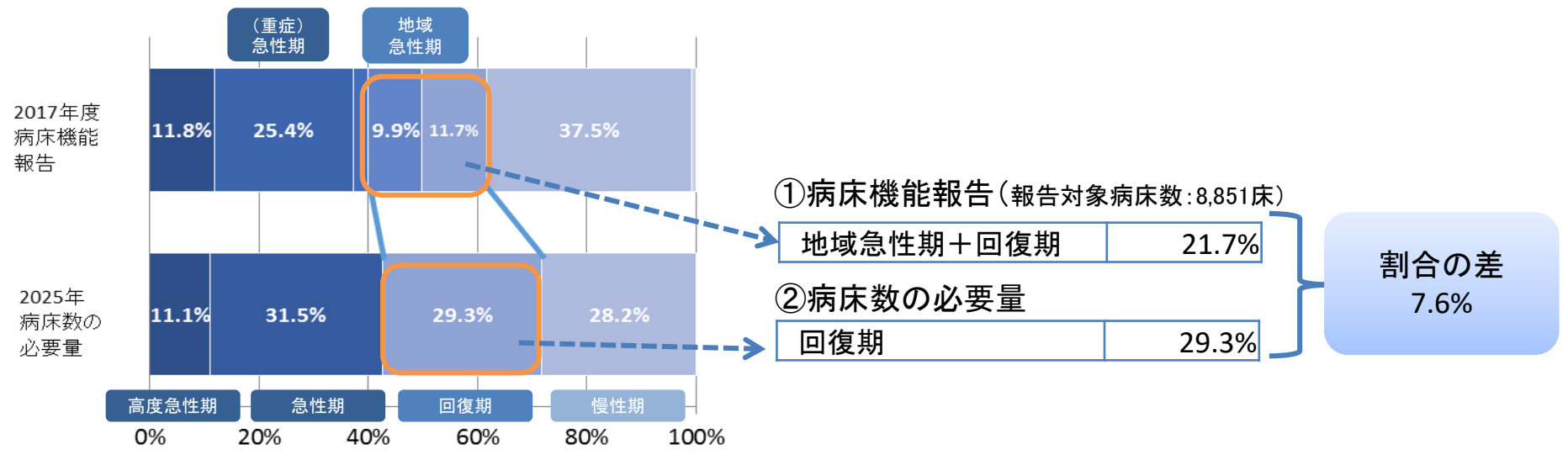
(5)南河内二次医療圏



(6)堺市二次医療圏



(7) 泉州二次医療圏



(8) 大阪市二次医療圏

